

# 大学・短大進学率（浪人等含む）は

## 51.5%で過去最高に！

-高等教育の普及、最終段階の“ユニバーサル”時代に突入！-

旺文社 教育情報センター

平成 17 年 8 月

平成 17 年度の大学・短大への進学率（浪人・大検等を含む）は過去最高の 51.5%となったことが、このほど発表された文部科学省の「平成 17 年度学校基本調査速報」でわかった。進学率は 5 年度に 40%台に突入して以降、16 年度には 49.9%まで達していたが、今回初めて 50%を超えたことで、日本の高等教育の普及度はいよいよ“ユニバーサル型”の最終段階に入ったといえる。ここでは、17 年度の大学・短大に関わる諸データを分析・紹介する。

### 「学校基本調査」とは？

「学校基本調査」は、学校の教育行政を進めるうえで 必要な基本的事項を明らかにするために、統計法(国の統計に関する基本法)に基づいて実施される全国規模の調査である。例年、文部科学省が小・中・高校・中等教育学校・幼稚園・専修学校・大学・短大など、すべての学校を対象に、学校数・在学者数・卒業者数や、入学状況・卒業後の状況などを調査する。

調査結果(5月1日現在。ただし、卒業後の状況は前年度間)は例年、「速報」が8月、正式な「報告書」が12月にそれぞれ公表される。

### 大学・短大への受験状況

#### <現役の大学・短大受験生数は67.3万人>

17年3月の高校卒業者数(中等教育学校後期課程513人を含む)は120万3千人で、16年度より3万2千人(2.6%)減少した。

このうち、大学・短大への受験生数(実数:ここでは、「基本調査」の志願者数を受験生数としている。以下、同)は67万3千人で、16年度より1万5千人(2.1%)の減少となった。これは18歳人口の減少(前年度より4万5千人<3.2%>減)と高校卒業者数の減少(前年度は4万6千人<3.6%>減)が大きな要因である(図・表1参照)。

#### <現役の大学受験生数は57万人台に減少>

現役受験生を大学・短大別にみると、大学では16年度より7千人(1.3%)減の57万8千人となった。これは、現役志願率の若干のアップ(前年度比0.6ポイント)以上に、高校卒業者数

の減少が大きく響いたものとみられる。短大の現役受験生数は、7.1%減の9万5千人で、10万人台を割った。なお、浪人の大学受験生数は、16年度より1万5千人(11.0%)の大幅減で、12万1千人だった。

#### <現役志願率は55.9%で、16年度より若干アップ>

大学・短大への現役志願率(17年3月の高校卒業者に占める志願者の割合)は55.9%で、16年度より0.3ポイントアップした(図・表2参照)。

大学・短大別では、大学は16年度より0.7ポイント増の48.1%、短大は0.3ポイント低下の7.9%だった。

#### <浪人を含む大学・短大受験生数は80万人を割る>

過年度卒業者(浪人:12万5千人)を加えた大学・短大受験生数(実数:大検等を除く)は79万8千人で、16年度より3万人(3.6%)減少した(表2参照)。

大学・短大別にみると、大学では69万9千人(前年度比3.1%減)と、前年度に引き続き減少している。短大は16年度に比べて7千人(7.0%)減少の9万8千人となり、ついに10万人を割った。(図参照)。

### 大学・短大への入学状況

#### <大学・短大への入学者数は70.3万人>

大学・短大への入学状況をみると、入学者数(大検等含む)は70万3千人で、16年度より1千人(0.2%)とわずかながら減少した(表2参照)。

大学・短大別では、大学が60万4千人で、16年度より6千人(0.9%)の増加となった。短大は16年度より7千人(6.4%)減の9万9千人であった。これは、17年度に開設した公私立14大学の内、11大学が短大の募集停止を伴っていたことが大きな要因と見られる。

#### <大学への不入学者数は2万8千人減少>

不合格者も含めた大学・短大の不入学者数(大検等を除く、受験者数-入学者数)は、16年度より2万9千人減り、11万4千人であった(表2参照)。

このうち、大学の不入学者数は16年度より2万8千人少ない11万3千人、短大は900人少ない900人であった。

大学の不入学者が大幅に減少したのは、受験生数の減少と入学定員の増加に加えて、18年度からの新課程入試を前にした“後がない意識”、国公立大のセンター試験5(6)教科7科目化の拡大などから、浪人を敬遠した結果とみられる。

#### <大学入学率は83.8%>

大学・短大受験生数(大検等を除き、浪人含む)に対する入学者数の割合(入学率)は85.7%で、16年度より3.0ポイント上昇した。

入学率を大学・短大別にみると、大学では83.8%で、16年度より3.4ポイント上昇している。また、短大も99.1%で16年度より0.8ポイント上昇した。

## 現役の大学・短大進学状況

### <現役進学率は2.0ポイント上昇し、過去最高の47.3%に>

高校新卒者(中等教育学校含む)の進路別調査では、大学・短大等(大学学部、短大本科、大学・短大の通信教育部等)への進学者数は56万9千人(前年度より9千人増)で、10年度以降7年振りに増加に転じた。

大学・短大等への現役進学率は、13年度の45.1%から15年度の44.6%まで減少していたが、16年度の45.3%で増加に転じ、17年度は過去最高の47.3%に達した(表1参照)。

### <男子進学率も過去最高の45.9%>

大学・短大等への現役進学率を男女別にみると、男子は3年度以降毎年上昇を続け、13年度に43.1%に達した。その後14年度(42.8%)・15年度(42.7%)とダウンしたが、16年度は43.6%で上昇に転じ、17年度は45.9%と過去最高となった。女子も12年度から4年連続のダウンが続いたが、16年度は47.1%に上昇、17年度は48.7%とこちらも過去最高となった。

進学率の男女差(女子>男子)をみると、6年度=16.3ポイント 10年度=10.4ポイント 13年度=4.0ポイント 15年度=3.9ポイント 17年度=2.8ポイントと、男子の追い上げ傾向が続いている(表1参照)。

### <現役進学率トップは京都の58.4%>

高校新卒者の大学・短大等への現役進学率を都道府県別にみると、0.2ポイント減少した石川県以外の全都道府県で増加した。アップ率が顕著だったのは、2.9ポイント=広島、2.8ポイント=奈良・京都、2.7ポイント=東京・熊本など、全国で22都府県が2.0ポイント以上アップした。この結果、全国平均の進学率も16年度より大幅に上昇して47.3%となった。

なお、17年度における現役進学率50%超の高率の都道府県は、16年度の10都府県に神奈川・大阪・富山・岐阜が加わり、14都府県に増えた。神奈川は2.4ポイント増の51.8%、大阪は2.1ポイント増の51.1%、富山は1.9ポイント増の50.5%、岐阜は1.7ポイント増であった(表3参照)。

## 浪人含む大学・短大進学率は50%突破

### <男子の進学率は53.1%と過去最高>

浪人や大検等も含めた大学・短大への進学率とは、進学適齢期の18歳人口136万6千人(ここでの18歳人口は、3年前の中学校卒業生数及び中等教育学校の前期課程修了者数を適用)に対する、大学・短大の入学者数70万3千人の割合である。

この進学率は51.5%で、過去最高となっている(図参照)。大学に限ってみると、入学者数は16年度より6千人増え、進学率は44.2%(前年度より1.8ポイント上昇)で過去最高を記録。一方、短大は7千人の入学者減で、進学率は0.2ポイント低下の7.3%であった。短大の進学率は6年度以降、減少傾向が続いている。

進学率を男女別にみると、男子は53.1%(前年度より2.0ポイント上昇)であるが、女子は49.9%(前年度より1.2ポイント上昇)で、50%目前となっている。

### < “ユニバーサル” 段階を迎えた進学率 >

浪人・大検等を含む大学・短大への進学率は3年度以降上昇を続けていたが、12年度の49.1%を境に、13・14年度48.6%(同率)と減少。しかし、15年度に49.0%と上昇に転じ、17年度は過去最高の51.5%と、高等教育(大学・短大)への進学率50%超のいわゆる“ユニバーサル”時代へ突入した(図 参照)。

### 大学・短大数と学生数

#### < 大学は17校増、短大は28校減 >

大学数(5月1日現在。大学院大学を含む。以下、同)は、国立87校(増減無し)・公立86校(首都大学東京、大阪府大など再編・統合をした3大学を加え6校増)・私立553校(東京医療保健大や株式会社立のデジタルハリウッド大など11校増)の計726校で、16年度より17校増加した。短大数は、国立10校(2校減)・公立42校(3校減)・私立428校(23校減)の計480校(28校減)であった。なお、本調査では、学生在籍中は学生募集停止の学校もカウントする。

#### < 女子の学生数は過去最高を記録 >

大学(大学院を含む)の学生数は16年度より5万6千人増加の286万5千人で過去最高に達した。このうち女子は16年度より2万4千人増え、112万4千人で過去最高。その占める割合も39.3%(前年度比0.1ポイント上昇)で過去最高となった。

なお、学部の学生数は250万8千人で、16年度より2千人増加した。一方、大学院の学生数は16年度より1万人増の25万4千人で過去最高となった。このうち、女子は16年度より4千人増の7万6千人で過去最高を記録した。

なお、増加した学生数(5万6千人)のうち、78.1%は聴講生、選科生及び研究生が占めている。

短大の学生数は6年度以降減少が続き、16年度より1万4千人少ない21万9千人であった。女子の学生数も20万人を割った。

大学・短大の女子の占有率をみると、短大は7年度以降減り続けているが、大学は拡大の一途をたどり、女子の四年制大志向の継続を示している(表4参照)。

### 新規高卒者の進路

今春高校を卒業した120万3千人の進路先は、大学・短大等47.3%、専門学校19.0%、就職17.2%、専修・各種学校7.3%、その他9.2%となっている(図)。「その他」のうち、一時的な仕事に就いた者は卒業生全体の1.9%、進学も就職もしない者は6.6%(7.9万人)となっている。

過去10年間の進路別割合をみると、大学(四年制大学)の増加に対し、短大の減少が目立つ。また、専門学校も19%前後を維持しているが、これは先行き不透明な経済状況などから、従来の短大層や一部の大学層からの流入があるとみられる(図)。

## “全入”は20年度にずれ込むか!?

中央教育審議会の大学分科会は17年1月、大学・短大の受験生数は19年度に約67万4千人まで減少し、全大学・短大への入学者数と同数になり、当初予測（平成8年の試算）より2年早く“全員入学”になるという試算を提示した。

ところで、今回（17年度）の「学校基本調査速報」の実績を大学分科会の試算に当てはめると、収容力（入学者数＜大検等を含む＞÷受験生数）は88.2%となり、試算より0.6ポイント下回ることがわかった。そのため、18年度以降の収容力を旺文社で試算したところ、収容力100%（＝全入）となるのは、20年度（大学・短大の受験生数及び入学者数が共に64万7千人と推定）にずれ込む可能性が出てきた。

いずれにしても、18歳人口・高校卒業生数減少、大学・学部等の新增設の増加に伴う定員増加、専門学校志向など進路の多様化、大学・短大への現役志願率アップの鈍化などの要因が重なり、“全入”時代は目前に迫っている。

さて、新課程入試初年度となる18年度の大学・短大受験生数（実数；浪人含む。旧大検・高認等除く）は、17年度より4万7千人（5.9%）減の75万1千人程度と予測される（図 参照）。このうち、大学受験生数は4万2千人（6%）減の65万7千人、短大受験生数は4千人（4.1%）減の9万4千人程度とみられる。

以下、参考図表（なお、図 は別ファイルに掲載）

高校卒業生(現役)における進学状況の推移 (表1)

年 度	高校 卒業生数	大学・短大等 進学者数	大学・短大等進学率(%)		
			計	男	女
平成6年	1,658,949	598,959	36.1	27.9	44.2
7年	1,590,720	597,986	37.6	29.7	45.4
8年	1,554,549	605,619	39.0	31.8	46.0
9年	1,503,748	611,431	40.7	34.5	46.8
10年	1,441,061	611,841	42.5	37.2	47.6
11年	1,362,682	602,078	44.2	40.2	48.1
12年	1,328,940	599,779	45.1	42.6	47.6
13年	1,327,109	599,026	45.1	43.1	47.1
14年	1,315,079	589,826	44.8	42.8	46.9
15年	1,281,656	572,181	44.6	42.7	46.6
16年	1,235,482	560,055	45.3	43.6	47.1
17年	1,203,245	568,713	47.3	45.9	48.7

(注)12年度以降の高卒者数には中等教育学校分を含む。進学者数には通信制を含む。

大学・短大への入学状況の推移

(表2)

年 度	受験生数(人)		入学者数 (人)	不入学者数 (人)	現役志願率 (%)
		現役			
平成6年	1,165,339	885,366	805,710	369,696	53.4
7年	1,132,684	862,017	801,317	341,191	54.2
8年	1,096,198	845,060	800,023	305,762	54.4
9年	1,046,580	820,737	794,234	261,981	54.6
10年	992,722	792,567	782,173	221,116	55.0
11年	931,847	756,149	758,532	185,288	55.5
12年	889,194	738,443	741,146	162,589	55.6
13年	880,733	741,141	734,199	164,706	55.9
14年	876,568	737,991	730,778	167,375	56.1
15年	854,203	713,651	717,814	157,307	55.7
16年	827,246	687,187	704,535	143,083	55.6
17年	797,518	672,664	703,275	114,018	55.9

(注) 受験生数は大学(学部)と短大(本科)の合計。受験生数と不入学者数には大検等を含まない。  
入学者数には、大検等を含む。

現役進学率が全国平均を上回った都府県

(表3)

順位	都府県名	進学率 (%)	前年度増減 (ポイント)	順位	都府県名	進学率 (%)	前年度増減 (ポイント)
1	京 都	58.4	2.8	11	大 阪	51.1	2.1
2	東 京	56.2	2.7	12	富 山	50.5	1.9
3	広 島	55.1	2.9	13	石 川	50.4	0.2
4	兵 庫	54.9	2.0	14	岐 阜	50.1	1.7
5	愛 知	54.1	2.2	15	岡 山	49.8	1.3
6	奈 良	54.1	2.8	16	愛 媛	49.5	0.4
7	山 梨	52.7	0.7	17	徳 島	49.3	1.4
8	福 井	52.3	2.2	18	静 岡	49.2	2.1
9	滋 賀	52.1	2.1	19	三 重	49.1	2.5
10	神奈川	51.8	2.4				

(注) 現役進学率の全国平均は、47.3%(前年度比2.0ポイント上昇)。印は対前年度減。

大学・短大学生数(男女別) & 女子占有率の推移

(表4)

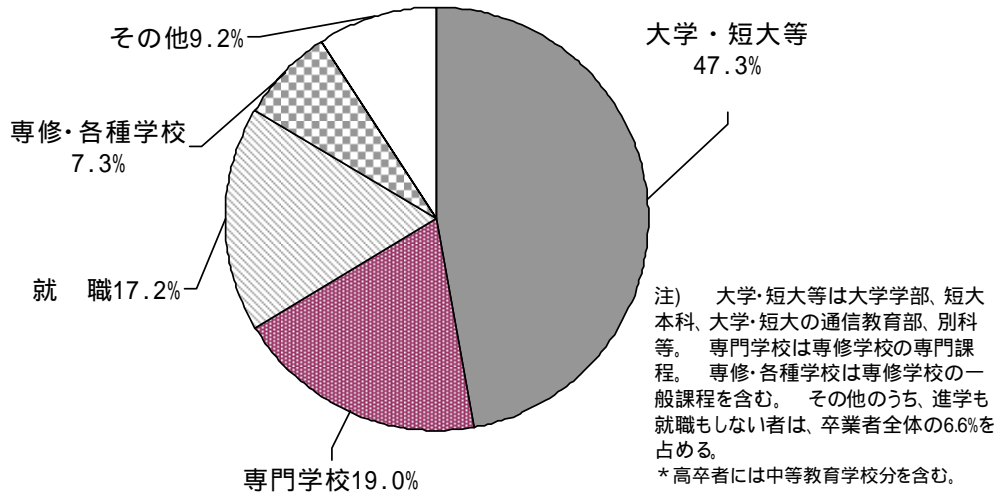
年 度	大学学生数(人)				短大学生数(人)			
	計	男	女	女子占有 率(%)	計	男	女	女子占有 率(%)
平成6年	2,481,805	1,706,156	775,649	31.3	520,638	42,829	477,809	91.8
7年	2,546,649	1,724,756	821,893	32.3	498,516	43,077	455,439	91.4
8年	2,596,667	1,732,520	864,147	33.3	473,279	43,989	429,290	90.7
9年	2,633,790	1,734,356	899,434	34.1	446,750	43,821	402,929	90.2
10年	2,668,086	1,737,215	930,871	34.9	416,825	41,453	375,372	90.1
11年	2,701,104	1,741,614	959,490	35.5	377,852	38,111	339,741	89.9
12年	2,740,023	1,747,711	992,312	36.2	327,680	33,990	293,690	89.6
13年	2,765,705	1,739,307	1,026,398	37.1	289,198	31,091	258,107	89.2
14年	2,786,032	1,726,088	1,059,944	38.0	267,086	30,057	237,029	88.7
15年	2,803,980	1,716,549	1,087,431	38.8	250,062	29,972	220,090	88.0
16年	2,809,295	1,708,456	1,100,839	39.2	233,754	29,291	204,463	87.5
17年	2,865,067	1,740,158	1,124,909	39.3	219,357	28,225	191,132	87.1

(注) 大学学生数には大学院等を、短大学生数には別科・専攻科等をそれぞれ含む



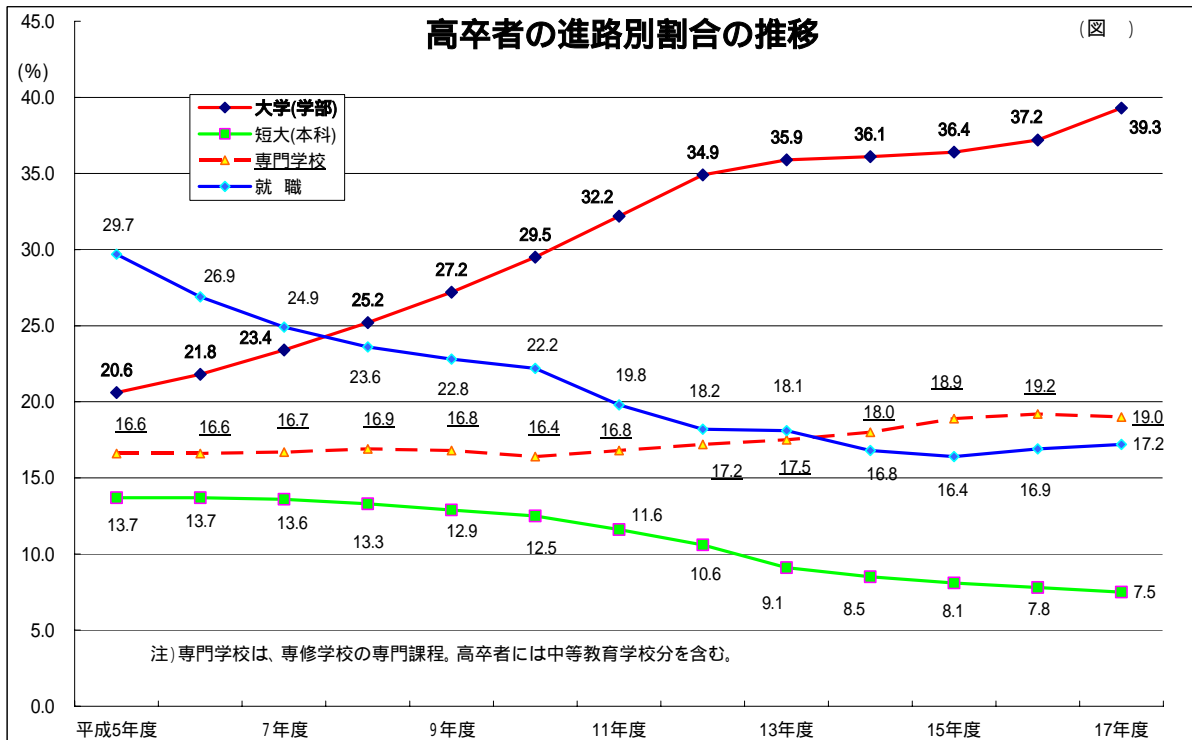
# 17年度高卒者120.3万人の進路別割合

(図)



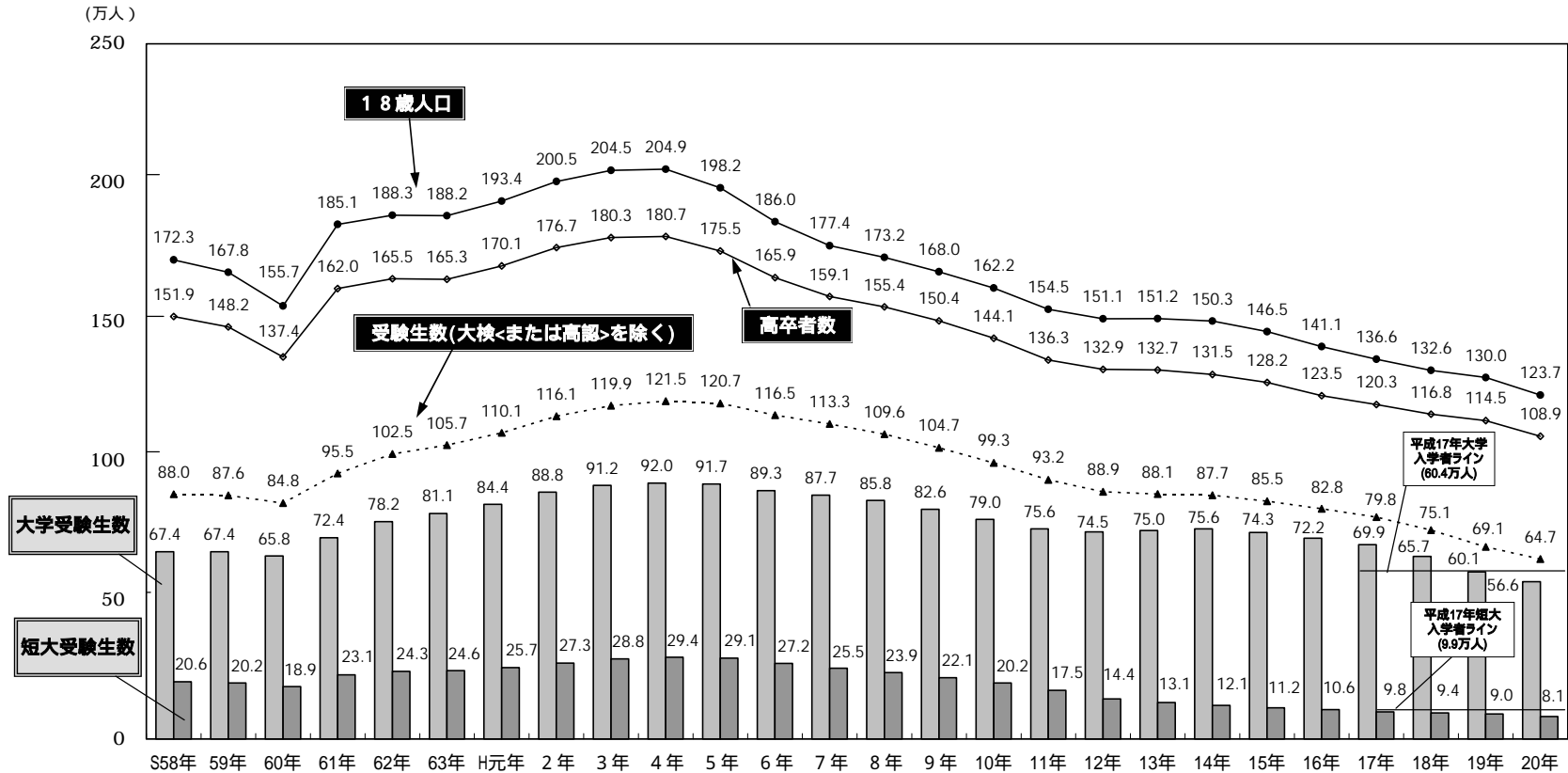
# 高卒者の進路別割合の推移

(図)



# 18歳人口・高卒者数&大学・短大受験生数の推移

図



進学率(%) (含む浪人)	35.1	35.6	37.6	34.7	36.1	36.7	36.3	36.3	37.7	38.9	40.9	43.3	45.2	46.2	47.3	48.2	49.1	49.1	48.6	48.6	49.0	49.9	51.5	52.8	51.8	52.3
現役志願率(%)	44.5	44.6	45.3	45.6	47.1	47.9	48.5	49.2	50.2	51.0	52.4	53.4	54.2	54.4	54.6	55.0	55.5	55.6	55.9	56.1	55.7	55.6	55.9	55.9	56.0	55.9

(平成17年以前は実数、18年以降は中教審大学分科会資料等に基づく旺文社による推定値。18歳人口は、3年前の中学校卒業生数と中等教育学校前期課程修了者数の合計。受験生数は、大学入学資格検定<18年度から高等学校卒業程度認定試験>合格者を除く)

© 旺文社 教育情報センター/2005.8

